

# 長身と向上心 武器に快進撃



バレー男子・守山区出身山内選手

バレーボール男子の日本は1日のイラン戦に勝利し、29年ぶりの8強入りを果たした。守山区出身の山内晶大選手(27)は204センチとチーム1の長身を生かし、9得点を挙げる活躍を見せた。「オリンピックは特別で1点1点がすごく重い。良い経験をさせてもらっている」。高校時代まで無名だった遅咲きの才能は、大舞台でさらに成長を遂げている。

(吉光慶太、平木友見子、齋藤正和)

名古屋市立工芸高校入学後にバレーボールを始め、愛知学院大時代に競技歴五年で日本代表に選出された異色の経歴の持ち主だ。

中学まではバスケットボールに打ち込み、高校では当初、ハンドボール部に入部。しかし長身細身の体形には向かない競技だと悟り、わずか一カ月でバレーに転向した。バレー部は部員が少なく、県大会出場もかなわなかった。そんな粗削りな才能が見いだされたのは高校三年の時。「大きい選手がいる」。高校

の監督から声を掛けられ、練習を見に行った愛知学院大バレーボール部の植田和次監督は、ブロックの足運びを少し教えただけで器用にこなす山

## 中学までバスケ 名市工芸高で転向

内選手に驚いた。卒業後は就職を考えていた山内選手を「将来世界と戦える選手になる」とスカウトした。

大学入学直後は「サーブも入らない。一年の春合宿ではコートの中で何も分からず迷子状態だった」と植田監督は振り返る。だが一週間たつと、ほかの選手に負けないような動きを見せるように。一年間試合に起用し続ける。次第に頭角を現した。

植田監督は山内選手の強みを「利口なこと、できないことを楽しんで取り組む性格」と分析する。一日のイラン戦でもブロックやスパイクなど要所で光るプレーを見せたが、山内選手は「もう少し相手の動きや特徴を見極めていきたい」と向上心を忘れな

い。植田監督は「本当に世界と戦える選手になったことが、とてもうれしい」と教え子の姿を頼もしいに見つめている。